日教組青年部ニュース２００６　日本教職員組合青年部　２００６年１０月２日

やっぱり青年部！　№４

暗い定食屋より明るい定食屋

全国青年部長会（５月）の歴代３人の青年部長のディスカッションより

随分前の話になりますが、GWの真っ只中の５月６日～７日に全国青年部長会を開催しました。その中で、「職場の中に日教組運動を！」と題し、歴代３名の日教組青年部長のパネルディスカッションを行いました。これまで、全国の青年部を見てきた方に、職場に戻って改めて見えてきたものを語っていただきました。今後、私たちが青年部運動をすすめていく上で、大きなヒントがあったような気がします。

簡単にではありますが、３人からのメッセージを少しでも多くの青年の仲間に聞いてもらいたいと思い、遅くなりましたが報告します。

日にち：５月６日（土）１３：３０～１５：００
テーマ：職場の中に日教組運動を！
コーディネーター：
　谷口　吉一　常任委員（兵庫県教組）
パネリスト：
　片山　直人さん（00～01青年部長　岩手県教組）
　衛藤　俊明さん（02～03青年部長　大分県教組）
　岩崎　雅崇さん（04～05青年部長　鳥取高教組）

近況報告をお願いします。

（岩崎）

日教組から戻り、すぐに転勤して１ヶ月がたった。職員会議で、ある生徒を退学にするかどうかの議論となった。子どもの「学習権の保障」の視点で、退学反対の立場で主張した。

（衛藤）

今、社会体育でサッカーを教えている。

（片山）

子どもたちと作った本が２月に完売した。ありがとうございました。

日教組にいた時に生まれた子が、小学生になる。今は、随分前のことのように感じる。

今、職場で感じていること

（片山）

子どもたちが、集まってテレビゲームをしている。集まっていても、バラバラのことをしている。職場も同じように、**同じところで過ごしているけど、バラバラに仕事をしている。**

（衛藤）

話さなければ話さないまま過ごす日が年々増えているような気がする。何とかしなければと思いながら過ごしている。

（岩崎）

高校は、それぞれの居場所があって、そこに入ってしまう。私が若い頃（？）は、いろんな話をした。今思うと、まだ、暇だったんだろうか。

今、教職員は、廊下を歩くのも忙しそうに歩いている。**生徒は廊下ですれ違うとあいさつをするが、職員同士は、目もあわせない感じがする。**

なぜ、バラバラなんでしょうか。

（岩崎）

若ければ若いほど、「こうでなければ」、「失敗は許されない」という意識が強い。**失敗したくないという意識から、自分が“わかっている”領域にこもっている**ように思える。

（片山）

１日８時間労働の中で、これをやらなければと必死にやっている。話す時間がもったいないと感じているのだと思う。自己責任ということばに象徴されるように、自分の仕事は自分がやらなければという意識。

現場に戻ったとき、私を入れて３名の分会員。**職場に居場所を見つけれない未組織の人たち**。18 歳の未組織の人とかかわっていく中で、職場の中の‘居場所”がないと感じた。３人で話して、彼の居場所を分会につくっていくという気持ちでかかわった。秋に加入した。他の未組織の人も入れようと、悩みを聞きながら、**個々バラバラなものを分会でどうつないでいけるかとりくんでいる。**

（衛藤）

職場の中の多くは組合員だが、つながりを持てていない気がする。職場の煩雑な仕事。**ちょっと話をするということがしにくい。話しかけたら話しかけたなりに仕事をとめてしまう。**

日教組から帰ってきたときに、日教組から帰ってきたという大きな期待を感じて、逆に言いにくかった。自分が何をできるかを考え続けている。

未組織の人に、組合のよさをどう伝えればいいのか。

（片山）

「組合はいいよ」といっても響かない。私は組織**拡大も自分ひとりではできない**。先ほど話した**分会員の３人の仲間といつも作戦をねっている**。まずは、**誘おうとしている仲間の声を聞くようにしている**。そして、そんな姿を他の仲間にも見てもらえるようにしている。

（岩崎）

退任するとき、「１人で３０人を１年間で加入させる」と宣言したが、まだ１人も入れていない。ずっと語ってきた仲間が、１１月に車のローンが終るというので、８月くらいから加入届けを机の上に置いていこうと思う。そして、自分の職場は体育の組合員がいない。部活を通じて体育教官室で話をするようにしている。

つながりは自分でつくっていくものだと思っている。**忙しいんだけど、時間は自分でみつけるもの**だと思う。

（衛藤）

（職場の多くが組合員のため）**加入してから、どれだけ伝えることができるかが大事になる**。平和教育のことを通じて、組合の意味がわかったという仲間もいた。

やめたいという人もいる。やめた人がいて、周りも「あーあ、やめてしまった」で終ってしまっている。職場での関わり方が大事だと思う。

青年部は今、何をすべきか。

（片山）

ものわかりのいい青年が増えている。従順な感

じで、言われたら、「はい」とやる人たち・・・。青年は、唯一、年齢制限のある専門部。**若いがゆえにできることがある。もっとかみつけよ、と思う。**提案されたことに、ハッと思うことが大事。間違いを正す青年部でなければならない。**ものごとを見る目、視点がもう一つあるべき**だと思う。そのためには、**仲間と実態を交流していくべき**だと思う。親組織の提案したことに、「はい」でいいのか。「ちょっと待ってください」という姿勢もいるのではないか。

（岩崎）

青年が、**発言すること、存在感を持つことが大切**だと思う。

（衛藤）

最近、うるさいなと思ってしまう保護者が多くなった気がする。保護者が、講師の人に「どうせ、臨時だから」という。そんなことに腹が立っている。

評価制度が入ってきたからか、管理職が失敗をさせないように、手とり足とり教えている。疑問に思って、４０代半ばの人に、「これで、いいんですか」と投げかけると、忙しいから、自分もついそうしているという。**もっと失敗してもいいんではないか**。そして、**失敗しても組合の中で、もっとこうすればと交流しあえればいいんではないか**と思う。

単組の青年部長はどんなことを提起していけばいいのか。

（片山）

今職場では、**個別化されているバラバラの中にもつながりを求めているところがある。若いところや非正規職員など、弱いところへの攻撃**が強まっている。**そんな声を聞いていくのが、青年の役割**だと思う。抱えていること、**個別化しているところを、共有すること**が大事。**そうでないと力が湧いてこない**。青年部としても大きな課題だと思う。

（衛藤）

できていないことを「できていない」といえる場が必要。つながりのない職場の中では何をやるのも難しい。ベースは職場、青年部で、**職場でつながれる場をつくっていく**ために、どう提起できるかが大事だと思う。

（片山）

やっぱり、一人でないことをわかってもらうことが大事。**一人ではないんだと思える場に人が集まってくる**と思う。

（岩崎）

質問の答えにはなっていませんが・・・、若い人が人の話ばかりで、自分のことを話さない。学校でも生徒のことを話して、自分のことを話さない。自分を出さない。そんな人たちに、どう加入を求めていくか・・・。そんな人たちには、子ども中心に語りかけることにしている。「子どものために、条件整備を一緒にしていきませんか」と。それをきっかけに、**自分の悩み、自分のことを語ってみたい**と思う。

鳥取高教組では、一分会一要求にとりくんでいる。青年部は、子どもに一番近い存在。一番子どもたちの気持ちや状況をキャッチできると思っている。

素朴な疑問ですが…　年休をとって組合の活動に参加することに抵抗のある青年にどう説明すればいいのか。

（片山）

子どもたちも、ずっと同じなのはいやなんじゃないですか。私はそう思います。子どもも疲れるだろ

うし、子どもたちが息を抜く時もいると思います。そういう視点でも、組合でたまには休みをとるのもいいと思うんですが。

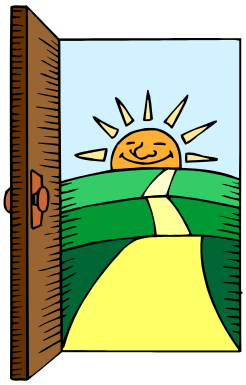
（岩崎）

お前がやらないなら、俺がやるっていいます（笑）

最後に青年部長へメッセージを。

（片山）

暗い定食屋と明るい定食屋、どちらに入るかというと明るいところに入る。明るく、楽しそうなところに行くと思うんです。**自分が求めているところにいくものです。**組合がそんなところでありたいと思う。



ここに来られている人は、いろいろ厳しい状況の中で思いをもって出てきている。**役員を担っている人が明るくないと人はついてこない**と思う。**ここにいると安心するという雰囲気を自然につくっていくこと**が大事だと思う。自分の安心できる場所をつくる。森越委員長が岩手にいる頃に、「苦しいなら、やめてしまえ」といわれたことがある。その通りだと思った。そんな気持ちでやれば、職場も青年部が作り変えていくことができるんではないでしょうか。

（衛藤）

昨年度まで、日教組で養護教員部長をされていた大分出身の馬場さんのことばの、「**いいかげんは、よいかげん**」。**いつもいつも入り込んでいては、自分も、周りもきつい**と思うので、「いいかげん」くらいでやれるといいのではないだろうか。

一つの例ですが、分散会などやることもあると思うのですが、「しゃべってください。」で、しゃべれない人の気持ちを大事にしていければと思う。

（岩崎）

スーパーマンになった気持ちでやってくれてもいいのかな・・・。**それでも、誰かが支えてくれていることに気づいていくこと**が大事だと思う。

教職員、一人ひとりがちがう。そんなちがう人たちが組合に入っている。そんな人たちが、**それぞれものが言える、居心地のよい青年部であってほしい**と思う。

（谷口）

限られた時間の中で、たくさんのエキスをいただきました。ありがとうございました。

記録を元に作成したため、完全なものではなく、また３人の方からすれば、若干、ニュアンスが変わっているところもあるかもしれません。

紙面の都合上、簡潔に書いてしまいましたが、３人の方たちが、迷いながら語られていた様子は、逆に、参加者にとって考えさせるものがあった気がします。

９月１６日に近畿ブロックの青年部委員会に参加しました。青年部長だけでなく、各単組、プラス１～５名が参加していました。２ヶ月に１回のペースで集まっているそうです。青年部長が一人でやるのではなく、一緒に考えていく仲間と共に参加するというのは大事なことだと感じました。活動する中で、「どうしようか？」と一緒に悩む仲間は、多ければ多いほどいいものです。

安部内閣が誕生しました。いよいよ臨時国会で教育基本法改正法案の審議がはじまります。何としてでも、廃案、最悪でも継続審議にさせることができれば、展望も開けてくるはずです！ともにがんばりましょう！

（文責：青年部長　賀来）

<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<

※ご意見・感想等は鹿教組HP問合せ先へお送りください。転送します。

>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>